



### 追 悼 ベアテ・シロタさんのこと

今年、元旦早朝の「ベアテさんが亡くなった」という知らせから始まりました。昨年暮れから具合が良くないとは聞いていましたが、本当に啞然としてしまいました。ご主人のジョーさんが四ヶ月前に亡くなって元気がなくなったと伺い、それは仲の良いご夫婦でしたから仕方のないことではあるけれど時間が経てば、またお元気になると思っていたのです。

ベアテさんと初めてお目にかかったのは、1998年のジェームス三木さんの作・演出による「真珠の首飾り」の東京公演時です。そもそも、ジェームス三木さんがNHKで「憲法はまだか」という日本政府側の動きに焦点を当てたドラマを書いたので、今度はGHQサイドから、憲法の先進性を押し出したいと言うことで、鈴木昭典著「日本国憲法を生んだ密室の九日間」(1995年刊)「1945年のクリスマス」(ベアテ・シロタ・ゴードン、平岡磨紀子 1945年刊)をもとに舞台劇を書き下ろしたのです。私は担当製作者だったのですが、参考文献の許可を得る作業が遅れたために、大阪で鈴木さん、平岡さんにお目にかかり、ベアテさんには国際電話をかけ、とバタバタしていた日々が思い出されます。ベアテさんは、日本語を聞くことしゃべることは堪能なのですが、漢字、平仮名は読めないのです。従って送った台本は近くに住む日本人に読んでいただき、ベアテさんが聞くという作業となりました。幸いいくつかの点についての修正のみで、あとは三木さんの詩的な創作だからと、ご了解を頂くことが出来たのです。そしてその後お友達をご覧になり、ぜひ観るようにとお勧めいただいて、急遽来日されたのです。

お目にかかったベアテさんは、本当に気さくな方で、誰にもオープンに接せられるので、こちらのほうが不安になるような場面が数々ありました。前進座劇場でご挨拶をいただき、吉祥寺での歓迎会と続き、舞台を喜んで下さったことだけでなく、当時元気だった劇団の土方与平さんとのロシア語での会話などで、一気に距離が縮まった一日でした。



ベアテさんはGHQで憲法草案づくりに携わって帰国された後に、ニューヨークのジャパン・ソサエティ、アジア・ソサエティで長らく日本文化、アジア文化をアメリカに紹介される仕事をされました。棟方志功さんを始めベアテさんにお世話になった日本の芸術家、文化人は数え切れません。また、お父さんのレオ・シロタさんのピアノの弟子もいっしょり知り合いも多いのです。そこに前述の本の出版があり、ベアテさんを愛する人々によって各地で「ベアテ講演会」も開かれるようになっていました。青年劇場はその力をお借りして、2000年から「真珠の首飾り」全国公演をスタートすることになります。各地で講演とセットで演劇公演の実行委員会を組むなどの取り組みが始まります。結局「真珠の首飾り」は2005年までで109回の公演を重ねます。その間、年に一度はベアテさんと東京でお目にかかっていたように思います。

日本国憲法の行く末を最後まで心配されていましたが、「9条世界会議」や劇団主催での四谷での講演会を行なった2008年の来日が、最後の講演旅行となりました。私的なことですが、妻は三ヶ月間のニューヨーク研修をベアテさんにお世話になったこともあって、日本での講演旅行に殆ど同行したこともあり、私たち夫婦にとってのベアテさんはまた特別の存在でもありました。「小娘が憲法を書いたという言われ方で憲法が穢されるのはイヤ」とおっしゃり、特に憲法九条との関わりについては多くは語りませんでしたが、何より日本が戦争への道をたどらない事を願っていたことは、身近に居て一番感ずることでした。戦前の日本で生活していたベアテさんだから、その怖さを知っていたのだとも思います。心からご冥福をお祈りします。

(代田2丁目・福島 明夫)

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、  
「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ～

## 代田・九条の会主催の行事予定

3月16日(土) 午前10時～12時

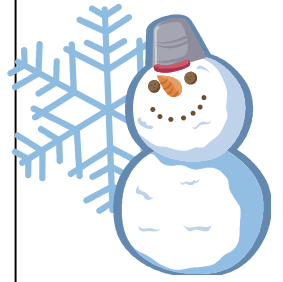
「自民党憲法草案」の学習会 講師：高岡 岑郷さん

会場：北沢タウンホール・10階ラプラスA/Bブース

4月7日(日) 午前10時半～

せたがや平和資料室見学 区立玉川中学校内(世田谷区中町2-29-1)

東急・大井町線・等々力駅に集合



## 井の頭線沿線九条の会浜田山の講演会に参加して

講演会「平和憲法改悪であなたの子どもを戦場に送るな-安倍政権と対決する「九条の会」の出番-」が、九条の会事務局長の小森陽一さんを講師に迎え1月13日に浜田山会館で開かれました。120名が参加し、立ち見ができるほどの盛況でした。

はじめに、先の衆院選で自民党は294議席(64%)を占め圧勝したことに触れ、自民党は得票率が小選挙区で24%(全有権者比)、比例代表で15%程度であり、国民からの信任が得られていないと指摘し、選挙結果は単に民意をゆがめる小選挙区制の帰結に過ぎず、絶望に値しないと語りました。

続いて、安倍政権が掲げる大企業言いなりの経済財政運営、民意に背く原発推進政策などは、国民の利益や国の発展につながらない政策であると断じ、加えて、河野洋平談話と村山富市談話の否定と新談話の構想や九条の解釈改憲(集団的自衛権の行使容認)と明文改憲(防衛軍の保持)の両輪で進める改憲構想などは国内外の世論に背を向けるものであると糾弾しました。

後半で、「九条の会」のこれまでの役割について次のように語りました。九条の会が発足した2004年は、アメリカの戦略に加担して自衛隊をイランに派遣した時期でしたが、世論は「憲法を変えた方がいい」が6割、「変えない方がいい」が2割と改憲賛成派が多数でした。その後、「九条の会」を立ち上げる運動が全国の地域や様々な分野で起こり、現在では7000を超える会が結成されています。このような運動の広がりによって、「変えない方がいい」の世論が年々増え、2008年以降、両者は拮抗するようになりました。

平和憲法を守り・活かす運動を一層広げるため、今こそ(1)九条の会のアピールを対話によって多くの人々に呼びかける、(2)今すぐできる行動を「九条の会」の総意で考え出す、(3)「九条の会」の呼びかけを地域の人々に届ける活動を進めて行こうと呼びかけました。

私たちも、改憲を公言する政治勢力と対決し憲法を改悪させないために、「九条の会」のアピールの普及と会への加入者を迎えることに努めていきたいと思えます。共にがんばりましょう。(代田2丁目・坂本 功)

## 「長江一乗合い船」を劇団東演が上演

「長江一乗合い船」(沈虹光・作)を劇団東演が上演します。珍しい中国の現代劇です。今の中国は、「改革開放政策」によって経済発展第一の道を突き進んできました。急激な変化がもたらす矛盾が国民の価値観も大きく変えました。作家の沈虹光さんが、そんな変化を怒りと哀しみを込めてこの作品を描きました。まさに時代が生んだ傑作です。

中国の大河・長江に臨むある都市。縁もゆかりもない二家族が同居している2LDKの団地が舞台です。そこで繰り広げられる笑い涙の人情喜劇。小さな嘘から始まった出会いと別れ……。ぜひ「パラータ」をご覧ください。(代田1丁目・劇団東演・横川功)

3月5日(火)～17日(日)・東演パラータ(代田1丁目)

一般3700円：シニア(65才以上)3500円 問合せ Tel03-3419-2871

## 集会等の紹介

3月3日(日) 午後1時～ 九条科学者の会・九条の会事務局 共催

憲法9条の新たな危機に抗して

講演1：日本政治の右傾化と憲法の危機 五十嵐 仁氏(法政大学社会問題研究所教授)

講演2：ここが危ない！集団的自衛権 松田 竹男氏(大阪市立大学特に教授)

参加自由：資料代500円

会場 明治大学駿河台キャンパス リバティタワー1012教室(1階) (御茶ノ水駅下車)

連絡先 「九条の会」のアピールを広げる科筆者・研究者の会(九条科学書の会)

(電話/FAX 03-3811-8320)

お願い：ニュースの原稿を募集しています。400字位で、お近くの世話人までお寄せください。  
また、活動費用に充てるためのカンパをお願いします。